



- 巻頭言『むかしの医療と今の医療』
昭和大学藤が丘病院 産婦人科 教授 齋藤 裕
- 『医療放射線について』
昭和大学藤が丘病院・藤が丘リハビリテーション病院 放射線部
- 『屋内消火栓大会に参加しました』
- 『新人教育多重課題実習について』
- 昭和大学公開講座を開催しました
- 応急給水訓練を行いました

巻頭言 『むかしの医療と今の医療』



産婦人科
教授・医長 齋藤 裕

私が藤が丘病院に赴任して間もなくの頃、丁度10年ほど前にこの広報誌に巻頭言を書かせていただいた記憶があります。それはミュンヘン国際空港の男性トイレで見たこの挿絵と同じようなハエのイラストのお話でした。女性には分からない些細なことかもしれませんが、男性は小用の際、何かに狙いをつけて用を足す習性があります。便器にハエのイラストがあればそれをターゲットとして集中するため、便所を汚さなくなります。当時はドイツ人の遊び心とユニークさを表した微笑ましいものに思えたものでした。今回のハエはお水取りで有名な奈良東大寺の二月堂のトイレで見つけたものです。たまたまデジカメを持っていたので即刻カメラに収めた次第です。二月堂でのお

水取りの儀式は「修二会」と呼ばれ、十一面観音菩薩の前で、「天下泰平」「五穀豊穡」「万民快樂」などを願って祈りを捧げ、我々が日常に犯している様々な過ちを11人の練行衆と呼ばれる

僧侶が我々に代わって懺悔することを意味しています。行中の3月12日深夜には、「お水取り」といって、若狭井という井戸から観音さまにお供えする「お香水」を汲み上げる儀式が行われます。この行を勤める練行衆の道明かりとして、夜毎、大きな松明(たいまつ)に火がともされ、参集した人々をわかせます。このため「修二会」は「お水取り」・「お松明」とも呼ばれるようになりました。お松明は6mにも及ぶ竹竿で作った大きな松明に火をともし、行をおこなう勇猛であり荘厳なもので、これは毎年欠くことなく1260年続いていると聞きました。東大寺はそもそも天平時代の政変、干ばつ、大地震、疫病や天然痘の蔓延などを修めるため、聖武天皇が初めての大きな国政として願いを込めて建立したとされています。聖武天皇はそればかりか医療や施薬についても造詣が深かったとされています。その頃の平均寿命は30歳足らずであり当時の医療とはどのようなものであったのかは興味があるところです。仏教のみならず神社仏閣、教会などの多くはその時代の歴史背景の上に建立されています。暇なときに歴史検索を試みるのも良いものです。何故二月堂の休憩所のトイレにハエがいるのかは、まだに謎です。余程トイレが汚されて困ったのか、遊び心のあるお坊さんの粋な計らいなのか。最近、自宅ではしゃがんで小用をするよう強要されている男性諸君が増えていると聞きます。これも時代なのか、年のなせる業か、戯言で失礼しました。



放射線は、原子核反応や原子核の崩壊、原子のエネルギーレベルの変化によって発生します。また放射線には、天然の放射線と人工の放射線があるのをご存知でしょうか。

天然の放射線とは、自然界にもともとあるもの、宇宙から降り注ぐ宇宙線、ラドン温泉のラドン 222、原子力発電の燃料となるウラン 235 などの放射性物質から放出されます。それに対して人工の放射線とは、核爆弾の実験や原子力発電所事故の際に放出されるセシウム 137 やヨウ素 131 などの放射性物質から放出されます。

ところで私達、診療放射線技師が日常でX線検査に用いている放射線は、人工放射線で、放射性物質からの放出ではありません。発生の原理は、高原子番号の物質(タングステン)に電子をぶつけて放射線を発生させます。放射性物質は、持続的に放射線を出し続け、制御するには遮蔽しかありません。しかし、X線検査に用いている放射線は、電子をぶつけるのをやめる、つまり電源のON/OFFで制御できます。

その他にγ線や陽子線など診断の一部や放射線治療に用いる放射線も扱いますが、法律の下でしっかりと管理を行い、安心して安全な技術を提供しております。

福島原子力発電所の事故以来、放射線は危険なものイメージがあります。しかし、検査や治療で使用する医療放射線は、私たち診療放射線技師がしっかりと管理をしていますので、安心して検査、治療をお受け下さい。放射線に関して、何か質問があれば気軽にお声かけ下さい。宜しくお願い申し上げます。

屋内消火栓大会に参加しました

平成 23 年 9 月 28 日 青葉区自衛消防隊技術訓練会が行われ、藤が丘病院は今年も訓練会に参加しました。隊員は大会までの 8 月下旬から当日まで練習を重ね、2 位となりました。補助員で参加していた隊員も、消火器の部門で見事 1 位を収めました。



藤が丘病院自衛消防隊は、去る9月28日こどもの国で行われた「青葉区自衛消防隊技術訓練会」に参加を致しました。私たち藤が丘自衛消防隊は、臨床工学士、放射線技師、事務員、看護師の5名で職種の違う構成員が、8月の猛暑日から大会に向けて練習を始めました。大会まで体力的に乗り切れるのかと心底不安に思いましたが、私以外は皆 20 代前半の若者で、過ぎてみると大変だったことが懐かしくも楽しい思い出となり、練習がなくなって淋しいと思うほど素晴らしい仲間に出会えました。

操法実施要領の目的に『迅速・的確な消防操法要領を習得すること』とあります。私たちは、「実際に院内で火災が発生したらどうする?」「藤が丘病院は私たちが護る」と冗談を交えながらも真摯に練習を重ね、消防士の指導に真剣に操法を体得しようと汗を流したことが、当日の結果に繋がったように思います。体調が優れない状況下でも専門職の底力とチームワークで、消火器操法で優勝、屋内消火栓操法が準優勝でした。

時計審査は1位チームと 1.1 秒差、技術審査は満点、完璧な操法だったと満足し、横浜市の大会参加を惜しくも逃し悔しさもありますが達成感で溢れています。充実した訓練の機会を得た事は私たちの財産であり、現場で活かす所存です。

この場をお借りして、病院長をはじめ業務の調整をしてくださった管理者の皆さま、協力してくださった職場の皆さま、練習会場まで送迎してくださった管理課の皆さま、そして、熱心的に的確な指導をしてくださった青葉消防署員の皆さまに心から御礼申し上げます。

(自衛消防隊隊長 松浦 千春)



新人教育多重課題演習について

『新人教育:業務管理・多情課題について』 看護部 次長 立川 京子

2011年4月、看護部では107名の新卒新人看護職員(助産師含)を迎えました。新人看護職員は、先輩看護師全員で指導・支援する屋根瓦体制のもと、段階ごとに設定された目標を達成しながら、質の高い看護を提供するうえで基礎となる「看護実践に必要な知識や技術」を獲得します。そして10月からいよいよ複数の患者さんの担当をはじめます。それに先立ち9月6日～9日の4日間、「業務管理」の体験学習として多重課題の演習を行いました。当院は看護配置基準最高レベルである7対1の看護加算を算定していますが、現場はいつも多重課題(計画された看護ケアや処置介助を指示された時間通りに実践しつつ、予定以外の突発事項やナースコールに優先度を判断しながら事故なく対応する状況を言います)の状態にあります。その判断や対応方法を実践を通して振り返り、安全・安楽の保障について考える研修です。演習では患者役はキャリアを積んだ師長たちが熱演し、新人の成長を実感できる嬉しい場面が見られたり、課題が発見できる機会にもなります。



『新人多重課題演習 指導者の立場から』 看護部 教育担当 笈沼智子



新人看護師対象の多重課題・時間切迫研修では、実際起こりうる場面を想定しロールプレイングで演習を行っています。

この演習では新人看護師が患者さんへ行う看護技術・対応方法を指導者が観察し、看護基準手順通りの行動がとれているか、社会人として専門職業人として必要な接遇が行えているか、命を守る優先順位が考えられているかを中心に評価をします。演習後、評価のフィードバックを行い、出来ていたところを伝え、今後の課題である出来なかったところへはどのようにすればよいのか具体的に指導します。

日々行っている看護技術とはいえ、自分自身がイメージする行動が緊張のあまりうまく行えず、悔し涙を流す新人看護師も中にはいました。そんな新人看護師へは専門職としての成長できていることをしっかり実感できるようにフィードバックしました。

演習を通して、患者さんがいるベッドサイドの現場で、適切な優先順位の判断かつ確実な看護技術が常に実施できるようになるために、自分自身の姿を振り返る機会としてほしいと考えています。一人前にはまだ学習が必要な新人看護師ですが、患者さんの命を守り、かつニーズにあった看護技術の提供が行えるよう、日々指導を受けながら成長しています。

『多重課題の演習での学び』 看護部7階西病棟 田中知紗

私が看護をしていく中で大切にしていることは患者さんとの信頼関係です。しかし、多重課題が起ると、決められた時間に看護行為ができなかったり、時間に追われ対応が雑になってしまったりと信頼関係が崩れる原因になりかねません。また、多重課題は学生時代に経験しない、新人にとっては誰もが乗り越えるのに苦労する課題です。今回、多重課題の演習を受け、同じ時間の複数の業務や、複数の患者さんから声をかけられることで、頭の中がパニックになり、何を優先すればいいのかわからず、どうすればスムーズに業務がこなせるのか正しい判断ができず、演習ではすべてが中途半端に終わり力量や判断力のなさに落ち込みました。しかし、指導して下さった方は「初めてのことなのだから出来ないのは当たり前、でも、私たちはプロだから、看護師の問題で患者さんに不利益があってはならないのだから、困ったときは先輩に助けを求め、どんなときでも安全で安楽な看護を提供できるようにしないかね」と指導してくださいました。多重課題は現場で必ず起こります。しかし私たち看護師は安全で安楽な看護を提供する必要があります。私たち新人は知識も技術も経験も浅く、トレーニングが必要です。現場から離れ、集合教育を受けることで、技術の習得だけでなく、未熟さやトレーニングの大切さにも気付くことができ、看護師としての意識を高めることができました。



昭和大学公開講座を開催しました

平成23年10月15日(土)午後2時より昭和大学公開講座を開催致しました。今回のテーマは『冬に気をつけたい病気(脳卒中)』と題し、脳神経外科 准教授 泉山 仁 『脳卒中にならないための心得』と昭和大学藤が丘リハビリテーション病院よりリハビリテーション科 講師 佐藤新介『脳卒中中のリハビリテーションの概要』を講演しました。当日は約90名ご参加頂き、『大変勉強になった』『スライドの効果がとてもよかった』『毎回楽しみにしています』といった声を頂きました。



応急給水訓練を行いました

当院は災害拠点病院の指定を受けていることから、平成23年10月20日(木)に横浜市水道局と災害時に備えて受水槽の給水訓練を行いました。この訓練は、災害時の医療救護活動において必要不可欠な水を確保するための初期対応を目的で行いました。当日は実際に職員がマンホールの蓋を開け水を出したり、実際にホースをつないで災害時に対応できるように訓練を行いました。今回は初めての応急給水訓練でしたが、今後は毎年行っていきたいと思います。



【診療統計】2011年8月～9月()内は1日平均

	藤が丘		リハビリ	
	8月	9月	8月	9月
外来患者数	34,984人 (1,295.7人)	33,133人 (1,380.5人)	5,950人 (247.9人)	5,404人 (225.2人)
入院患者数	15,203人 (490.4人)	14,835人 (494.5人)	5,200人 (173.3人)	5,435人 (181.2人)

編集後記

めっきり寒くなり、いよいよ食欲の秋がやって参りました。
 おいしい旬の食材を楽しみにされる方も多いことと思います。
 秋の味覚のイモ類は、糖質が多くエネルギー源となり寒さ対策に抜群です。
 『しっかりと頂いて、寒さに備える。』今年はずっとにまして、しっかりと味わい、食材からもウォームビズをしてはいかがでしょうか？
 (豊巻美里)

広報委員 三邊武幸 末木博彦 吉村吾志夫
 谷山松雄 扇谷浩史 池田裕一 田口清 高橋良昌
 上ノ宮彰 西山謙一 岩田香苗 吉原利栄 伊藤久美
 高橋良治 庄司博 佐藤薫 渡邊哲 太田麻美
 豊巻美里(順不同)